

令和6年度 総合的な学習の時間 全体計画 江戸川区立中小岩小学校

学校の教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・よく考える子（課題に粘り強く取り組み、しっかり考え、判断する子） ・思いやりのある子（自他の生命を尊重し、だれに対してもやさしい子） ・たくましい子（明るく元気に活動し、自らの健康・体力の向上を図る子）
----------------	--

国が示す総合的な学習の時間の目標	
<p>探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究的な学習の課程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。</p> <p>(2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。</p> <p>(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。</p>	

学校の総合的な学習の時間の目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1 横断的・総合的な学習や探究的な学習を見通すこと 2 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成すること 3 学び方やものの考え方を身に付けること 4 問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協働的に取り組む態度を育てること 5 自己の生き方を考えることができるようにすること 	

育てようとする資質や能力及び態度	
知識及び技能	
第3・4学年	第5・6学年
<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれには特徴があり、多種多様に存在している ・互いに関わりながら、よさを生かしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる意見や他者の考えを受け入れる ・他者と協働して課題を解決する
思考力・判断力・表現力等	
第3・4学年	第5・6学年
<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題や手段を選択し、情報を収集する ・相手や目的に応じて、分かりやすくまとめ、表現する 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題や手段を見つけ、必要な情報を収集し、分析する ・学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等	
第3・4学年	第5・6学年
<ul style="list-style-type: none"> ・自らの行為について意思決定する ・目標を設定し、課題の解決に向けて行動する 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会に興味をもち、学習したことを生活に生かそうとする ・自己の将来を考え、夢や希望をもつ

内容	学習対象	学習事項
第3学年	小松菜について調べる やさしさの輪を広げよう～みどり学級との交流～ 私たちの町の安全を考える きこえとことばの教室について知る	<ul style="list-style-type: none"> ・小松菜栽培の歴史や文化、受け継ごうとする活動や取組 ・様々な特性をもつ人々との関わりと自分たちのできること ・地域安全マップの作成
第4学年	やさしさの輪を広げる～障害、福祉、共生～	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な特性をもつ人々や高齢者の生活と自分たちのできること ・身近な生活の利便性や共生社会について
第5学年	SDGsについて調べよう～地域、取組、展望～	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの町（江戸川区）とSDGsの取組 ・環境問題と自分たちの生活のかかわり ・環境の保全やよりよい環境の創造のため取組
第6学年	自分の夢・将来を見つめる 将来への展望とかかわりで訪ねてみたい人や機関	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の特長と将来への展望 ・働く人の様子や働くことの意義を考える ・社会で活躍している人々とかかわりと探究

学習活動	指導方法	指導体制	学習の評価
<ul style="list-style-type: none"> ・3年生は地域、4年生は福祉、5年生は環境、6年生は自己の生き方を主なテーマとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導の工夫 ・協働的な学習活動の充実 ・教科との関連的な指導の重視 ・言語活動による体験の意味の自覚化 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材の活用と効果的運用 ・チーム・ティーチングの日常化 ・ワークショップ研修の重視 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人内評価の重視 ・指導と評価の一体化の充実 ・学期末、学年末における指導計画の評価の実施